

41. 志佐川流域の地質

地 域	松浦市長野—横辺田—田ノ平—上志佐小学校
交 通	西肥バス 松浦市長野下車
地形図	佐世保・伊万里（1／50,000） 江迎・伊万里（1／25,000）

長野バス停留所でバスを降り立った地点でルート上の地形、地質を概観してみよう。志佐川はこれより下流へ北々東、上流へ東方～東南東と流れる流路の屈曲点にあたっている。この地点の地層はバスの全行程で経過してきた佐世保層群ではなく、その上位にくる大屋層である。

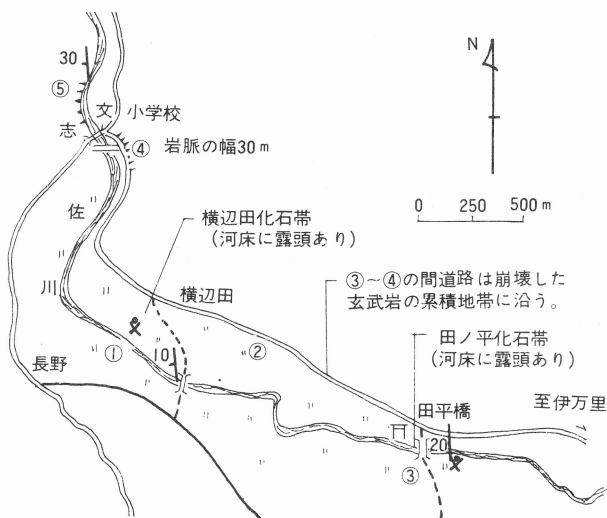
地質図をみると志佐川に平行して南方に国見断層、北方に長浜断層が走っている。その間の谷間を志佐川が開析していることがわかる。地形的に断層谷となるが、上記の断層はかつて石炭を盛んに稼行していたころ坑内においても確認されたものである。

① 水田のあぜ道を横ぎり志佐川の川畔に出る。この付近が横辺田化石帯である。川床にはタニシ、ベンケイ貝、バカ貝等の化石が豊富に見られるがタガネがないと採取し難い。また川床があらわれる渇水期でないと観察もできない。上流へ約 300m のぼると橋があって、この橋脚にある含雲母粗粒砂岩の河床には罅穴が見られる。

② 大屋層下半部の凝灰質けつ岩と佐世保層群との不整合があり凝灰質けつ岩の中には玉ねぎ状構造が見られる。

③ さらに上流へ進むと田平橋に達する。河床は豊富なカキ、二枚貝、巻貝等を含む田ノ平化石帯となっている。青灰色の柔い粗粒砂岩中に化石が含まれているので壊れ易く完全な形で採取し難い。横辺田化石帯の淡水性種と異なり、これ等は汽水性の化石である。

下盤には佐世保層群特有の迷彩砂岩がありその中に偽層やサンドパイプが観察される。



松浦市志佐河流域のルートマップ

帰途は日本でも屈指の大規模なスケールをもった松浦玄武岩の基底れき岩の観察をしながら上志佐の笛吹バス停へ向う。一般に玄武岩におおわれた地域は水利の便が悪く荒野となっているのに対し、その下位の基盤は湧水に恵まれ水田等として開墾され部落が散在している。両者の境界線が指呼の間に望まれるのも面白い。

④ 横辺田の下流では玄武岩の岩脈が河床に出て柱状節理が認められる。

⑤ 上志佐小学校対岸の山腹では基底れき岩の露頭の全貌が観察される。佐世保周辺ではこの玄武岩と基盤との境界線の標高が 300 m 位であるが、北方に行くに従い低くなってこの付近で 100 m 足らずとなっている。基盤の大屋層は細粒の砂岩・けつ岩の互層でれきには角ばったものがほとんどなく、うずらの卵状によく円磨されたものが多い。岩質は塩基性の火山岩やチャート等の古期岩石できわめて堅硬なのが特質である。

(小林 茂)